

平成二十五年十二月

舊臘、普連土學園にて教へ子生田美子さん、學園の依頼を受け、桐朋學園關係の音楽家を加へてクリスマス・コンサートを開き、好評を博せり。会場ホールに入る直前、手前なる音楽室にて多くの生徒の、かなり眞剣に吹奏樂の練習せるを目撃して感慨あり。余が教頭なるをり、新任の音楽教師なる女性、以前は中學生の吹奏樂指導に力をいれをりたりと聞き、當校には個人として樂器演奏に秀でたる生徒多かれど、クラブ活動としては合唱、ハンドベル、輕音樂程度なるを、その教師を活かす意味にても吹奏樂のクラブ作らせむと、父母會と相談、かなりの豫算を組みてもらひて一式の樂器揃へたること思ひ出だせり。以後女子には身に餘るほどの重きチューバにもめげず挑戦するなど、クラブ活動活潑に行なはるるに至りたるは後に仄聞せるところなり。

演奏會跳ねて後の歡談の折、金色のフルートにて演奏せる相場皓一氏に尋ぬるに、十四金の合金により作られたるものとの話より、十八金、二十四金のフルート使ふ者あり、さらにはプラチナのもの、しかも學生の所持したる者ありと聞き仰天す。さらには管樂器の演奏、世界にはその例見られぬほど日本は殷盛なる由。氏、吹奏樂の指導もせるが、以前は行進さへ良くば演奏など問題にもせられざるを、今のマーチ、歩きながらの音樂の、その音樂性のレベル高からねば評価されずとのこと。練習には一絲亂れぬ動きを目標とし、一メートルを何歩にて歩ききるかの練習などありと、苦笑さる。

この話を聞きてより旬日を経ずして、偶然のことながらテレビにて「全日本マーチング・コンテスト」なる番組目撃し、相場氏の話のまことなるを知る。

どのチームも目を瞞るにたるほどの制服着用は當然のことにして、全員の形作る動きのフォーメーションはX型、ハート型、錨型、星型など、事前に十分に設計せられたるものならむ。樂器を目の前にかかげてのマーチ、演者前を見るのみにて、下に目を落すこと一切なし。どの生徒もあるポイントに至れば、同じ角度にて回転す。行進の中には、蟹の横這ひのごときもあり、後ずさりもありて人の目をおどろかす。吹奏樂器で演奏しながら歩み行く列と、反対方向に動く列の入れ交りても他人とぶつかることなきは、外國人の驚嘆するゼブラゾーンの青信號時の横斷に似る。大勢の歩行者の混雜にも、ぶつかつるなどの混亂見らるゝことなし。

出演のいづれの學校生徒の、かかる整然たる音樂行進に感嘆するとともに、見續くうちにいづくかに滑稽味の感じらるるを抑へ難かりき。アンリ・ヘルグソン、かつて『笑ひ』なる本を書きて、笑ひは生のこはばりより生まるるものとし、人間がロボットののごとき機械的なる動きをすること笑ひの種となるといへる意味の發言をしたりと覺ゆ。今

の世、ロボットの動きいよいよ人間の滑らかさに近づけるを、行進（マーチング）にては人間がロボット機械に近き動きをすること誠に笑止ならむ。

そもこの「行進」なる語、明治の始め、軍隊の隊列の動きより出たりといふ。樂隊の音に連れて全員が歩調を合す。やがて軍艦行進曲等軍隊に使はるゝ行進曲日本人により作られ始め、東京行進曲、道頓堀行進曲等々、民間のものも數知れず。ここに特筆すべき曲あり。明治三十年代に世に出でし「鐵道唱歌」なり。この歌、唱歌とは稱せるものの、二拍子の行進曲風なるがゆゑか、大いに流行し皆に歌はる。著名なる哲學者までもが、六十五番もあるこの歌詞を暗誦して得々とせり。鐵道と行進が日本人の速度感を近代化せりとの説をなす者あるもこの間の事情を語るものなり。日本人のリズム感、音樂感性、ここに大なる變化をはじめたりといふべきか。

行進の以前はかかる隊伍を「行列」と呼べり。いかなる大藩のいかめしき大名行列にせよ、その一人一人の歩みはばらばらにして、なにものかに促されて歩調を合することなどなかりき。普連土學園にては吹奏樂部、外部のコンクール、行進には一切參加せずとの方針と聞き、宜なるかなと、行列と同様なる安堵感抱けり。